

ケースを使った学習活動

AOTS日本語教育センター
神吉宇一

ケースメソッドとは

- ハーバードビジネススクールにルーツ
- ケースを読んで討論をする
- 知識習得ではなく意思決定の力を育成
- 経営層の育成

キーワード

学習者中心, 自律, 協働, 参加型

二つの特徴

教師の役割

- 議論, 討論のきっかけづくり
- 進行役

学習素材

- 教科書ではなく「ケース」
- 実際の事例をもとに作成する
- 学ぶべき知識や理論ではない
- 正解や解決策の記述はない

求められる(育成する)能力

- 読解力
- 状況把握力
- 課題発見力
- 分析力
- 批判的思考力
- 論理的思考力
- 交渉力
- 説明力...

学習活動の流れ

ケースを読む(事前課題)

- 素材となるケースの読解
- 事実の整理
- 関連情報の収集

討論する

- 事実確認
- 課題確認
- 解決策の議論, 分析, 検討

内省する

事前課題のタスク例

- タイトルや見出しから内容を想像してください
- 短時間でざっと読み概要を把握してください
- 誰がいつどこで何をどうしたかを整理してください
- 課題だと思うことを整理してください
- 課題ごとに解決策を考えてください

参考

- 高木晴夫(2002)『慶応ビジネススクール高木晴夫教授のMBA授業LIVE～リーダーシップ論』中経出版
- 高木晴夫, 竹内伸一(2006)『実践！日本型ケースメソッド教育』ダイヤモンド社
- 池田玲子(2010)「ケースメソッドを始める前に」日本語教育学会教師研修PPT資料